



絶え間ない技術革新により社会構造が変化し続けている現代。よりどころとなる指標が見えにくい状況の中で、生きている充実感や幸福の実感を得ることは、簡単ではなくなっている。そんな中、ときに立ち止まり、周囲を見渡し、自分にとって何が本当に大切なものなのかを問いかけることは、大きな意義があることではないだろうか――。そこで、さまざまな人に「私の宝物」を問いかけてみた。

## 読み聞かせの道しるべ

はらぺこ  
あおむし君

作家 志茂田景樹

弱ったな、と白紙の原稿を前にして思った。

アクセサリーはかなり持っているほつでも、そのときのファッションに合うものをつけるので、そのときだけの一過性の宝物になる。

大体、物質的なものには飽きっぽく執着心に乏しいので宝物ができていく。

腕時計もスウォッチを取っ換え引っ換えはめているだけだものねえ、と机を見渡したら…。

あった。

結構、長続きしているお宝があったのだ。

陶製(はらぺこあおむし)が僕を見ている。

左耳が欠損し、大分色あせているが、もう14年も机上で辛抱強く我慢している。

僕のパソコンのすぐそばにいて、キーボードを叩く音がうるさかろうに。僕は強くキーボードを叩くほうで、大分離れた机にいるスタッフにも耳障りに聞こえていると思っている。

ところで、このはらぺこあおむし君とは感動を共有している。僕は1998年10月から読み聞かせ活動を始め、翌年8月に「よい子

に読み聞かせ隊」を結成している。昨年の5月末で読み聞かせ&講演会の回数は1700に達した。

今年の夏の初めには18

00回に到達するだろう。はらぺこあおむし君はどこかの読み聞かせ&講演会でファンの方にいただいた。事務所へ戻って何かの必要があって、スタッフに読み聞かせ&講演の通算回数を数えて貰ったところ、「今日ので、ちょうど1000回です!」という返事が飛んできた。

そうか、とほくほうなずきながら、はらぺこあおむし君の頭を繰り返し返してた。

(きみが100回を運んでくれたんだな。ありがとう。最近、活動が軌道に乗ったんだよ。1000回は達成するよ。見守っていてくれよ)

僕はこみ上げる感動に任せて彼に誓ったものだ。1000回はとうの昔に超えて2000回に近づいている。

(きみは僕の宝物だよ。ありがとう)

数カ月ぶりに埃がたまった頭をなでた。粗末にごめんよ、と僕は非礼を詫びたのでした。

